

## 永田町でも 百姓宣言

### 「現場の実情を訴え続ける」

〔大雪被害対策が決まる〕

前月号でも書かせていただいた大雪被害の状況について、自民党内では関係部会を中心に議論を交わされました。特に、北陸地方を地元とする先生方の切実な意見を関係省庁もしっかり受けとめてくれたと思います。

今般、被災したハウスの撤去も含めた農業用ハウスの導入経費の助成、それから被災に伴い必要となる追加的な種子、種苗の確保、種苗の融通のための輸送に要する経費の助成、被害果樹の植え替えや未収益期間に要する経費の助成などの対策が決定されました。

私が国会に送り出していたいた以降、残念ではありますが、災害対策に関する議論が頻発しています。それと同時に、党内では被害状況の共有、支援対策の議論をするための関係部会が迅速に開催され、先生方の声が対策に反映されていることを実感しています。

### 〔国会審議予定が大混乱〕

連日の報道のとおり、財務省による公文書の書き換え問題の余波で、国会は空転しました。関係者の証人喚問要求を盾に野党が予算委員会などを欠席するという事態が一週間ほど続きまし

この問題は行政の信頼を揺るがす前代未聞の大問題です。政府は財務省の独断であるという見解を崩していませんが、問題の本質はどこなのか。

私たち農業関係者もこの間、規制改革推進会議に翻弄されてきました。そして、世間の論調は、官邸の力が強すぎるということ。その影響は行政にも及んでいます。内閣人事局という言葉も脳裏をよぎります。真実は何か、どうすれば信頼回復できるか、真摯に向き合わなければなりません。

農林水産委員会では、齋藤大臣の所信表明への質疑が行われるなど、運営が正常化されました。

この間、農林水産委員会や党農林部の現地視察が続きました。政策目標と現場実態の温度差。こうした点をしっかりとフォローしていきたいと思っています。



▲参議院農林水産委員会での視察風景

## 参議院議員山田としおの

### 農政問題に斬り込む

#### 「地域の農林水産業振興促進議員連盟を発足」

高齢化と人口減がすすむ中山間地を中心に、地域の農林水産業が元気をなくしている中で、競争力強化を柱とする市場原理と新自由主義的政策が唱えられ、乱暴な提言がなされる状況にある。

その危機感から、地域そのものを取り上げた議連をつくり、他の議連とも連携して、党の重鎮である竹下巨先生、森山裕先生、吉田博美先生、吉川貴盛先生、宮下一郎先生らを中心に取り組むことになり、私は事務局長に就任した。

3月15日の設立総会で、87名の議員が加入するなか、竹下会長は「田舎を支えるにはどうしたらよいか。地方が壊れれば、都会も壊れる。経済合理性だけで物事を割り切るのは学者の理論であって、政治ではない。徹底的に田舎を守っていくんだ」という決意である。これが自民党の大きな方向性である」と挨拶され、議連設立の趣旨を見事に発言いただいた。また、森山顧問からは「地元の農業や漁業は、本当に限界にきていると実感している。しっかりとした政

策対応をしなければならぬ。竹下会長のもと、どういう政策が必要になるのか真剣に考えていきたい」と挨拶され、宮下幹事長からは「党内のさまざまな取り組みに横断を刺した戦略を打ち出す役割がある」と議連の目的を述べていただいた。

さらには、ご出席いただいた細田博之先生からも「今、農林水産業は多極分解してしまっている。この議連では、足を靴に合わせるのではなく、足に合う靴を皆で探していく。地域を守っている人たちが、これからも地に根を張って頑張れる、そういう政策をつくっていくべきではないか。議連の趣旨には大賛成である」と述べていただいた。

今後の議連の政策提言として、

① 中山間地や離島等の条件不利地域対策

② 圧倒的な農林漁業従事者の高齢化と求められる新規就農者対策

③ 農山漁村地域の活性化のための6次産業化の振興

④ 地域に基盤を置く農協・森林組合・漁協等の役割の評価と活動の活性化

⑤ ふるさと回帰等、過疎化地域と都市化地域の交流の促進対策

等を重点に検討することにし、私は事務局長として頑張ります。